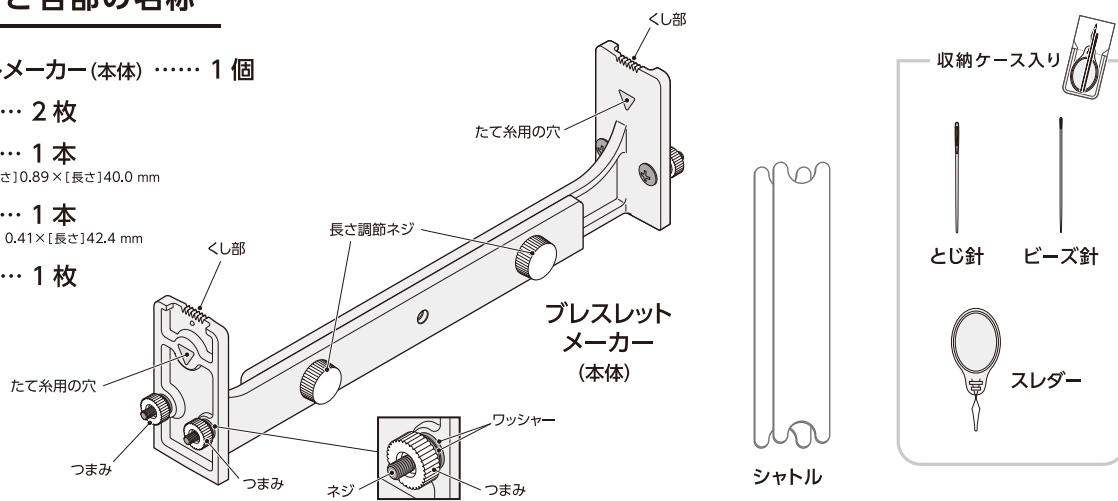


## セット内容と各部の名称

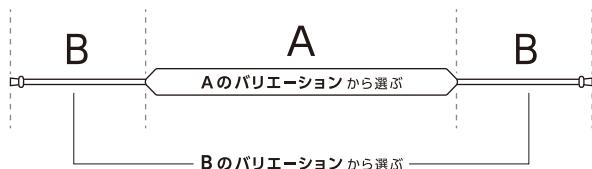
- ・ブレスレットメーカー(本体) …… 1 個
- ・シャトル …… 2 枚
- ・とじ針 …… 1 本  
とじ針(No.20): [太さ]0.89×[長さ]40.0 mm
- ・ビーズ針 …… 1 本  
ビーズ針(短): [太さ]0.41×[長さ]42.4 mm
- ・スレーダー …… 1 枚



## ▶ 作り始める前に…

ブレスレットメーカーを使って作れるブレスレットは、下の図のようになります。

本体にたて糸を張り、別糸を結んだり織ったりして A の部分を作った後、本体から取り外して B の部分を作ります。(A の部分が、ブレスレットのメインになります。)



この説明書では、  
A のバリエーションとして、“結び”・“織り”・“ラダーワーク”的法  
から 8 種類、B のバリエーションとして、3 種類の技法を紹介しています。(参照 [▶ 使い方説明書 -2](#))

A の部分を作る時、結びの技法と、織り・ラダーワークの技法では、たて糸の張り方が異なります。

- ◆ 結び … たて糸用の穴にたて糸を通して張ります。
- ◆ 織り・ラダーワーク … くし部にたて糸をかけて張ります。
- (詳しくは [A の部分の作り方](#) をご覧ください。)

### ブレスレットの長さについて

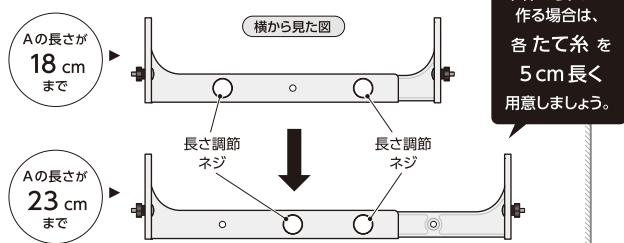
- A の長さは、手首周りの長さ + 1.5 cm が使いやすい長さの基準です。好みで調整してください。

$$\text{手首周りの長さ} \quad \boxed{\text{cm}} + 1.5 \text{ cm} = \boxed{\text{cm}}$$

(手首周りの長さが 14 cm の場合、A の長さは 15.5 cm が目安になります。)

- B の長さは、両端それぞれ 5~8 cm ぐらいに仕上げると使いやすいです。(B の部分は、A の部分を作った後に残ったたて糸で作ります。出来上がる長さは、技法や糸の種類・本数、結び具合によって変わります。)

本体を出荷時のままの状態で使用すると、  
A の部分は、最長で 約 18 cm、長さ調節ねじをとめ直して  
本体を長くすると 約 23 cm まで作れます。  
(本体の長さによって、たて糸の長さが変わります。)



## 用意するもの

- ・糸 (たて糸用、結び糸または織り糸用)    • メジャー    • 定規    • はさみ    • セロハンテープ (またはマスキングテープ)

**適した素材：**刺しゅう糸 25 番、刺しゅう糸 5 番、レース糸、並太毛糸など、

刺しゅう糸 25 番  
がオススメ!

伸びにくく切れにくい糸。

(繊細な作品を作りたい場合は、ミシン糸や手縫い糸なども使えます。)

お好みで、ビーズなどを入れても!

- ビーズを使う場合 … ビーズ、ミシン糸 (ビーズを糸に通す時に使います)
- ラダーワークで作る場合 … ビーズ、ビーズステッチ用のナイロン糸

## ► それでは、プレスレットを作っていきましょう。

Aの部分を作つてから、Bの部分を作ります。Aの部分の作り方は、[結び]の場合と[織り・ラダーワーク]の場合の2種類があります。お好みの技法を選んで作りましょう。

### Aの部分の作り方

### 結びの場合 (例) タッチング結び

#### 用意する糸

##### たて糸

刺しゅう糸 25番 (6本取)  
約 50 cm × 2本

※たて糸1本あたりの長さは、どの結びの技法の場合でも同じです。

##### 結び糸

刺しゅう糸 25番 (6本取)  
2 m × 1本

細く仕上げたい場合は1本でもOK!

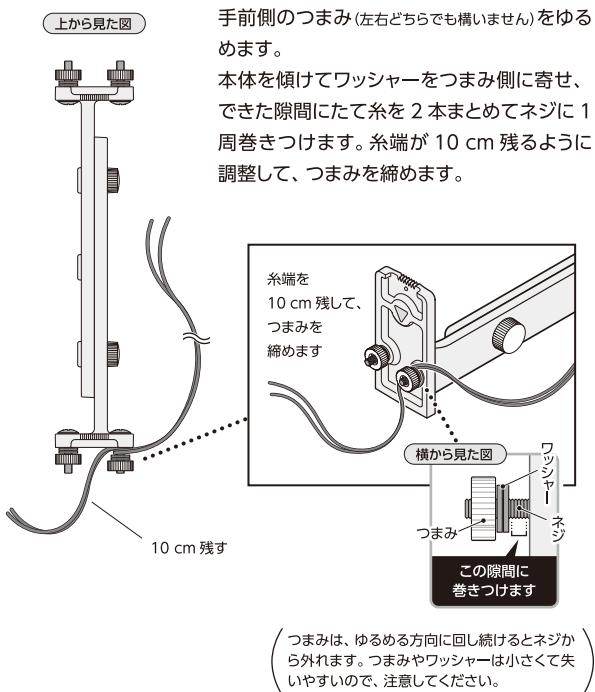
※必要な結び糸の長さは、Aの長さ、糸の種類や本数、使う技法や結び具合によって変わります。

■ ここでは、出荷時のままの長さの本体で、Aの長さが15.5cmのプレスレットを刺しゅう糸25番(6本取)を使って「タッチング結び」の技法で作る方法を説明しています。

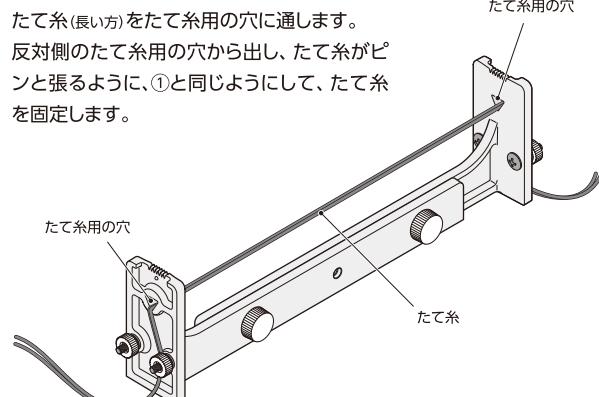
■ 作りたい作品に合わせて、プレスレットの長さ、糸の種類や本数、技法を自由に変えてください。

■ 他の結びの技法を使う場合は、タッチング結びの部分をお好みの技法に変えて作りましょう。

#### ① つまみでたて糸を固定します。

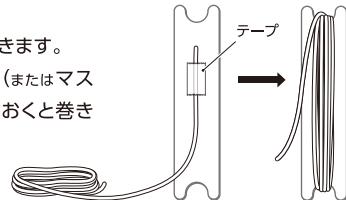


#### ② たて糸を張ります。



#### ③ シャトルに糸を巻きます。

シャトルに、結び糸を巻きます。  
糸端をセロハンテープ(またはマスキングテープ)でとめておくと巻きやすいです。



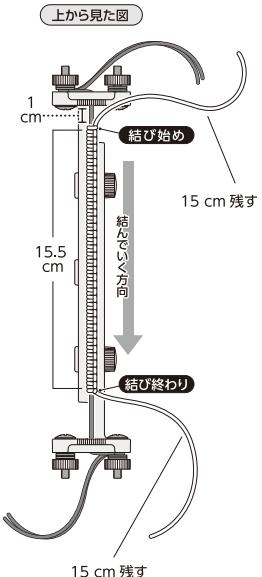
#### ④ Aの部分を結んでいきます。

結び糸を、たて糸に結んでAの部分を作ります。Aの部分は向こう側から手前側に結んでいきます。

● 結び始めは、結び糸の糸端を15cm残して、たて糸の本体の端から1cmほどの所に結びつけます。

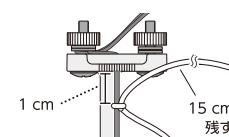
● 糸を結びつけたら、タッチング結びをしていきます。(結び方は、別紙「タッチング結び」をご覧ください。) 結んだ部分が15.5cm(最初に決めたAの長さ分)になるまで結びます。シャトルが通しにくくなったら、シャトルから糸を外して、糸だけで結びましょう。

● 結び終わりは、糸端を15cm残して結び糸をカットし、たて糸に結びつけると、Aの部分でのきあがりです。



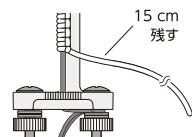
##### ● 結び始め

糸端を15cm残して、たて糸に結びつけます。本体の端から1cmの所に結びつけます。



##### ● 結び終わり

必要な長さまで結び終わったら、糸端を15cm残してカットし、たて糸に結びつけます。



## Aの部分の作り方

## 織り・ラダーワークの場合 (例) 織り-たて糸5本

### 用意する糸

たて糸 刺しゅう糸 25番 (6本取)  
約 55 cm × 5本

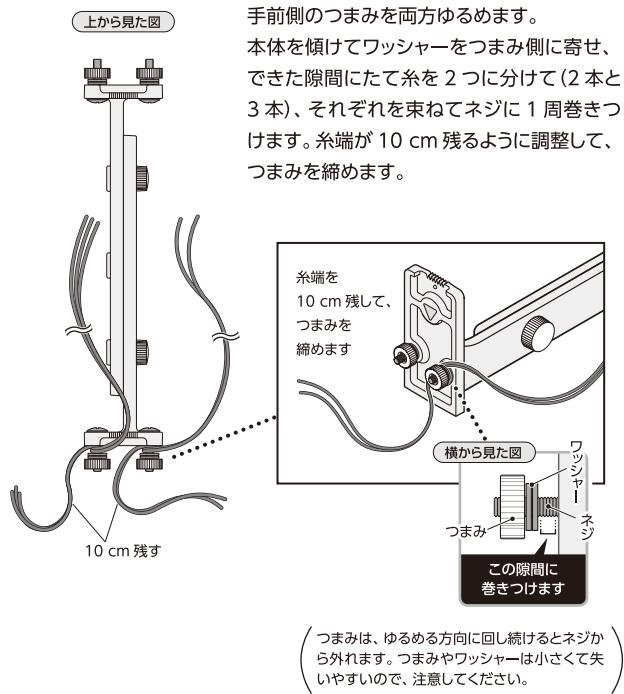
※ たて糸 1本あたりの長さは、織りの場合で  
も、ラダーワークの場合でも同じです。

織り糸 刺しゅう糸 25番 (6本取)  
3 m × 1本

※ 必要な織り糸の長さは、Aの長さ、糸の種類や本数、織り具合によって変わります。

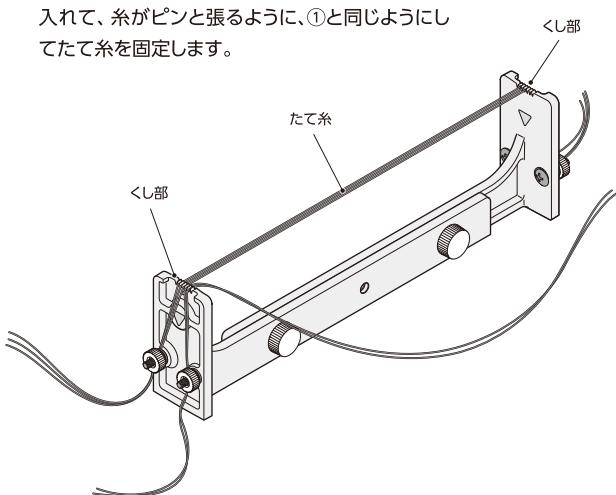
- ここでは、出荷時のままの長さの本体で、Aの長さが 15.5 cm のブレスレットを刺しゅう糸 25番 (6本取) を使って「織り-たて糸5本」の技法で作る方法を説明しています。
- 作りたい作品に合わせて、ブレスレットの長さ、糸の種類や本数、技法を自由に変えてください。
- ラダーワークの場合は、2本のたて糸とナイロン糸とビーズを用意します。( 参照 [使い方説明書-2 裏面 / ラダーワーク](#) )

### ① つまみでたて糸を固定します。



### ② たて糸を張ります。

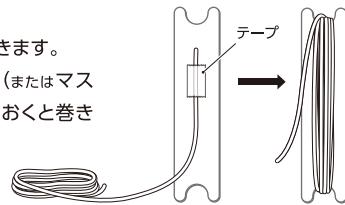
たて糸(長い方)を手前側のくし部の溝に1本ずつ  
入れます。糸が重なったり、ねじれたりしないよう  
に気をつけて、反対側のくし部の溝にも1本ずつ  
入れて、糸がピンと張るように、①と同じようにし  
てたて糸を固定します。



② 本商品や使い方説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

### ③ シャトルに糸を巻きます。

シャトルに、織り糸を巻きます。  
糸端をセロハンテープ(またはマス  
キングテープ)でとめておくと巻き  
やすいです。



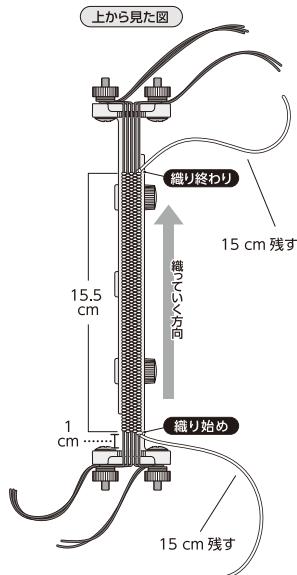
### ④ Aの部分を織っていきます。

織り糸をたて糸に通し、Aの部分を織っていきます。Aの部分は、  
手前側から向こう側に織っていき  
ます。

● 織り始めは、織り糸の糸端を15 cm 残して、一番右のたて糸の  
本体の端から1 cm ほどの所に  
結びつけます。

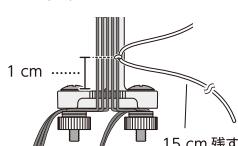
● 糸を結びつけたら、織っていき  
ます。(織り方は、別紙「織り」をご  
覧ください。) 織った部分が15.5  
cm(最初に決めたAの長さ)になる  
まで織ります。シャトルが通しに  
くくなったら、シャトルから糸を  
外し、とじ針を使って通します。

● 織り終わりは、糸端を15 cm 残  
して織り糸をカットし、一番端の  
たて糸に結びつけると、Aの部  
分のできあがりです。



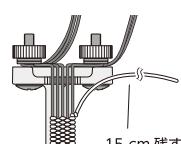
#### ● 織り始め

糸端を15 cm 残して、たて糸に  
結びつけます。本体の端から1  
cm の所に結びつけます。



#### ● 織り終わり

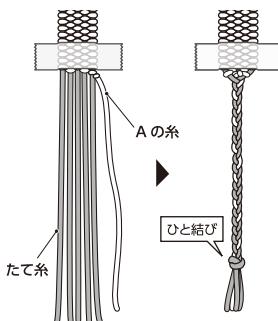
必要な長さまで織り終わったら、  
糸端を15 cm 残してカットし、た  
て糸に結びつけます。



**Bの部分の作り方**

本体からブレスレットを取り外して作業します。

- ① 本体からブレスレットを取り外して、Aの部分の端をセロハンテープ(またはマスキングテープ)で机などに貼り付けて固定します。(Aの糸端はテープの下に出し、たて糸と一緒にBの部分として仕上げます。)



- ② 別紙の[Bのバリエーション]に従って、Bの部分を作ります。必要な長さになるまで作れたら、Bの端をひと結びします。

- ③ 反対側も同様にして、できあがり。

途中で糸を変えた場合は、最後に糸始末をしてください。  
(参照 POINT - 糸始末の方法)

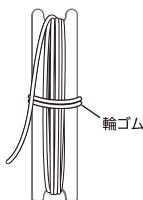
**できあがり**

たて糸のみでBの部分を作りたい場合は、Aの糸端をAの部分に通して糸始末をしてください。  
(参照 POINT - 糸始末の方法)

**POINT****● シャトルの糸が外れてくるとき**

作業中にシャトルの糸が外れてくるのが気になる場合は、輪ゴムでとめて作業してください。

糸を出したい時は、一度輪ゴムを外して、糸を出してください。

**● 糸にビーズやパーツを入れる場合は、あらかじめ糸にビーズなどを通しておきます。****刺しゅう糸などへのビーズの通し方**

- ① ビーズ針にミシン糸を通し、ミシン糸が輪になるように端を結びます。
  - ② ミシン糸の輪に刺しゅう糸を通したら、針でビーズを拾って、刺しゅう糸の所までビーズを移していくきます。
- \* ビーズの内径に対して糸の太さがギリギリで通しにくい場合は、一気に通さず1個ずつゆっくり通しましょう。

**結び糸・織り糸に入れるとき**

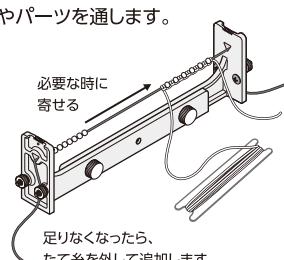
★ ラダーワーク以外の技法で使えます

あらかじめ、結び糸や織り糸にビーズやパーツを通しておき、Aの部分を作りながら、必要なところでビーズをたぐり寄せます。

**たて糸に入れるとき**

★ 織り・ラダーワーク以外の技法で使えます

- ・たて糸を張る前に、ビーズやパーツを通しておきます。
- ・必要なところでビーズをたぐり寄せて結びます。
- ・ビーズが足りなくなったら、手前側のつまみをゆるめてたて糸を外し、ビーズを追加します。

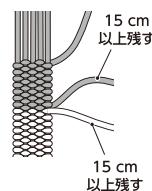


★ 刺しゅう糸25番(6本取)の場合、丸大ビーズには2本、丸小ビーズには1本が、通せる最大の目安です。

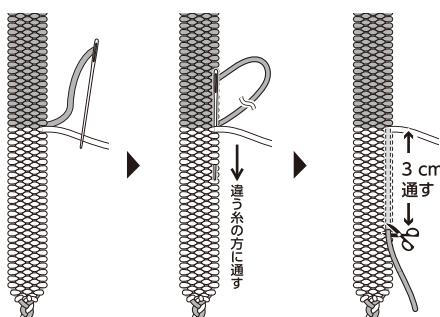
**● 糸の変え方**

途中で糸がなくなったり、糸を変えたいときに。

前の糸の糸端が15cm以上残るようにし、次の糸端を15cm以上残して始めます。糸端は、結ばずそのままにしておき、最後にまとめて糸始末をします。  
(下の[糸始末の方法]参照)

**● 糸始末の方法**

途中で糸を変えた場合は、とじ針で糸端を始末します。

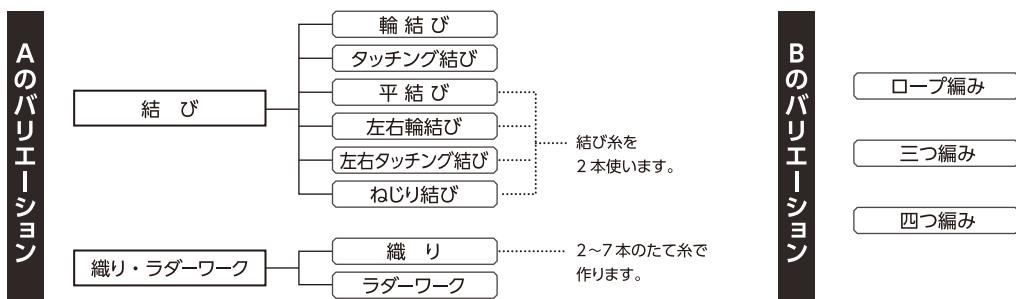


とじ針に糸端を通し、Aの部分の中に、たて糸に沿わせるようにして差し込んで隠します。何度も繰り返し3cm以上通せたら、糸を切ります。

**注意**

付属のスレーダーでとじ針に刺しゅう糸を通そうとすると、スレーダー破損の原因になります。

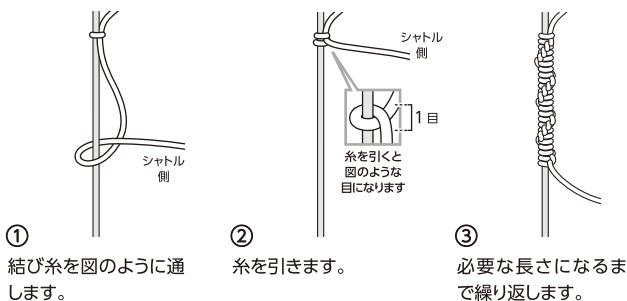
この説明書では、ブレスレットメーカーでブレスレットを作るのに使える、いろいろな技法を説明しています。  
お好みの技法でブレスレットを作りましょう。



## Aのバリエーション 結び

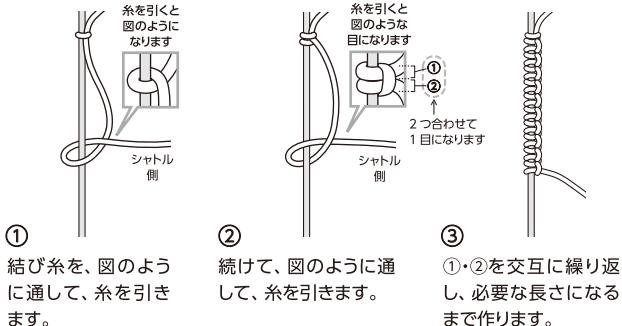
### 輪結び

(結び糸：1本)



### タッチング結び

(結び糸：1本)



ビーズを入れた作品例

たて糸に入ると(作品例は、9目ごと)

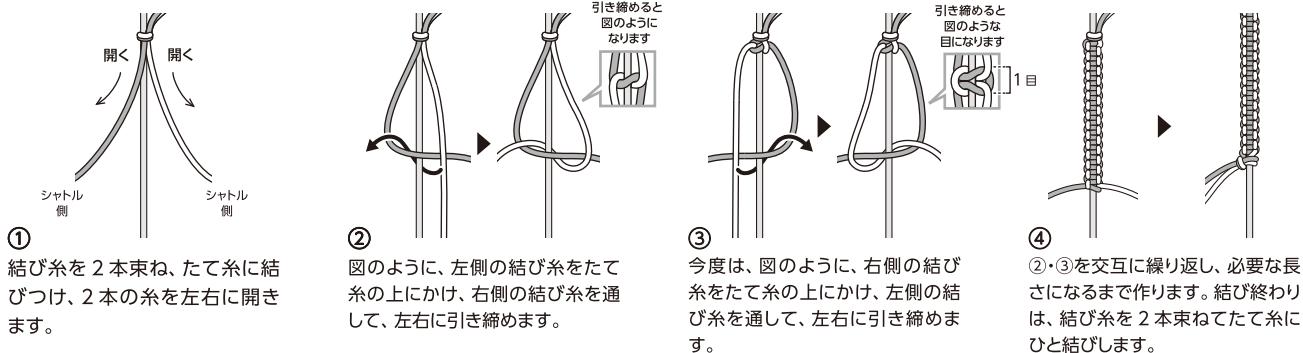
結び糸に入ると(作品例は、3目ごと)

たて糸に入ると(作品例は、2目ごと)

結び糸に入ると(作品例は、1目ごと)

### 平結び

(結び糸：2本)



ビーズを入れた作品例

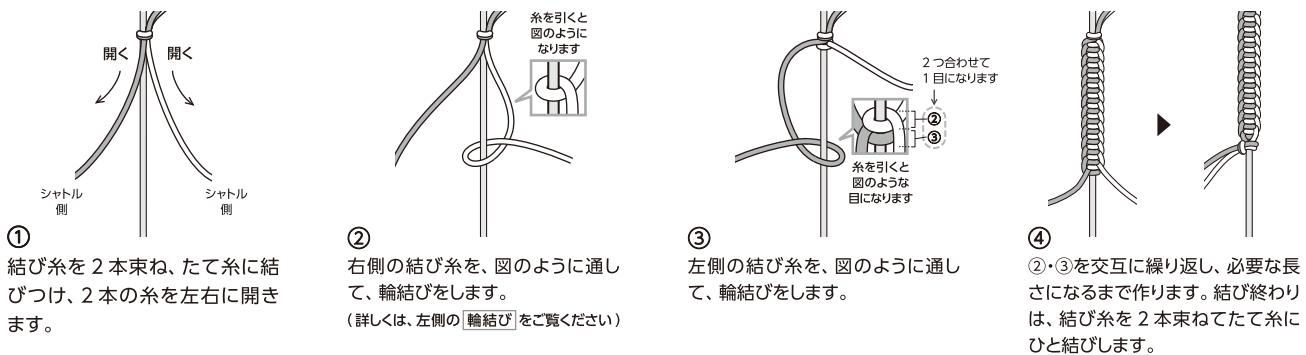
たて糸に入ると(作品例は、3目ごと)

結び糸に入ると(作品例は、半目ごと)

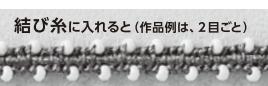
② 本商品や使い方説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

## 左右輪結び

(結び糸: 2本)



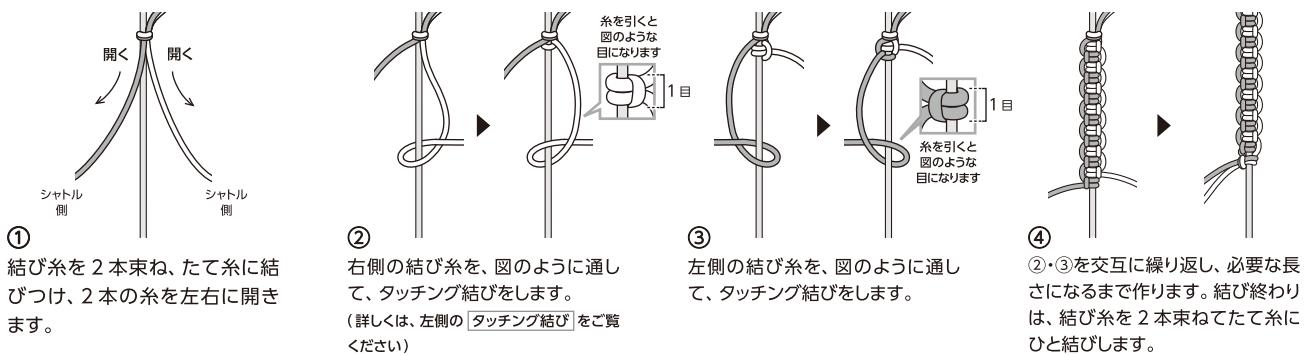
たて糸に入ると(作品例は、2目ごと)



結び糸に入ると(作品例は、2目ごと)

## 左右タッチング結び

(結び糸: 2本)



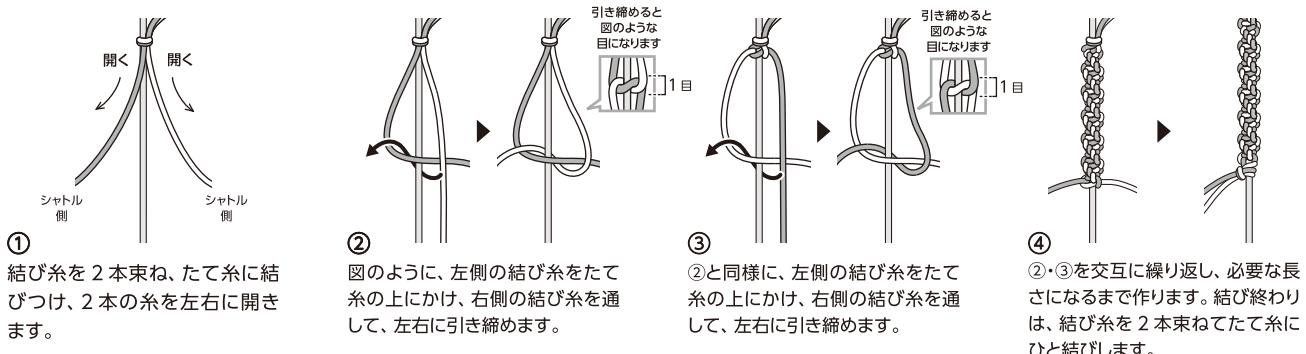
たて糸に入ると(作品例は、3目ごと)



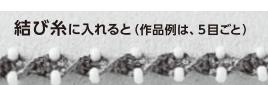
結び糸に入ると(作品例は、2目ごと)

## ねじり結び

(結び糸: 2本)



たて糸に入ると(作品例は、5目ごと)



結び糸に入ると(作品例は、5目ごと)

### POINT

自然にねじっていくので、常に左側の結び糸をたて糸の上にかけるように意識しましょう。

## Aのバリエーション

## 織り・ラダーワーク

### 織り

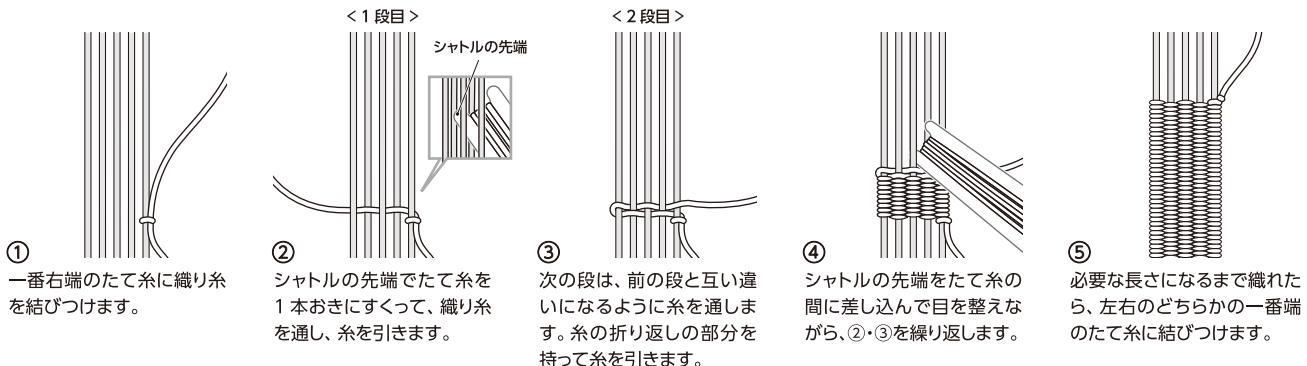
(たて糸: 2~7本)



ビーズ  
を入れた  
作品例

(たて糸3本)

5本織りで説明していますが、織り方は全て同じです。

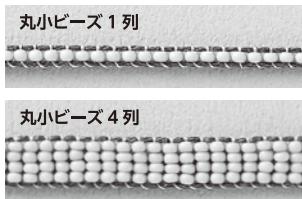


### ラダーワーク

(たて糸: 2本)

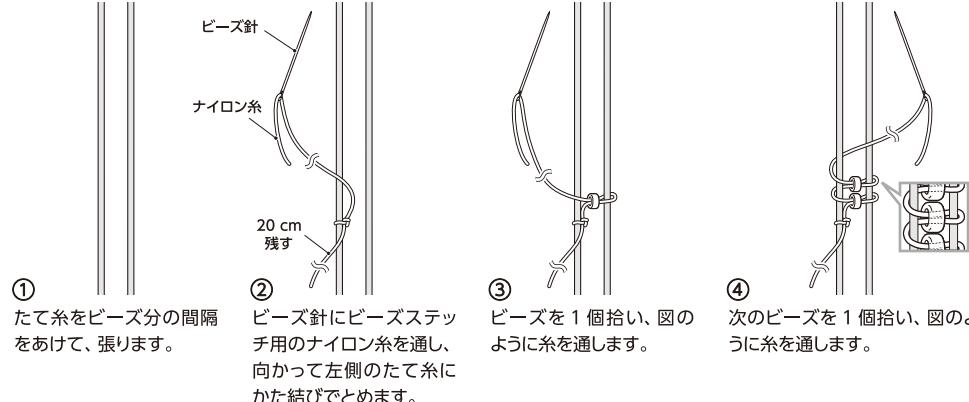
“ラダーワーク”では、ビーズステッチ用のナイロン糸を使って、たて糸の間にビーズを固定していきます。

ビーズ1個で説明していますが、作り方は全て同じです。



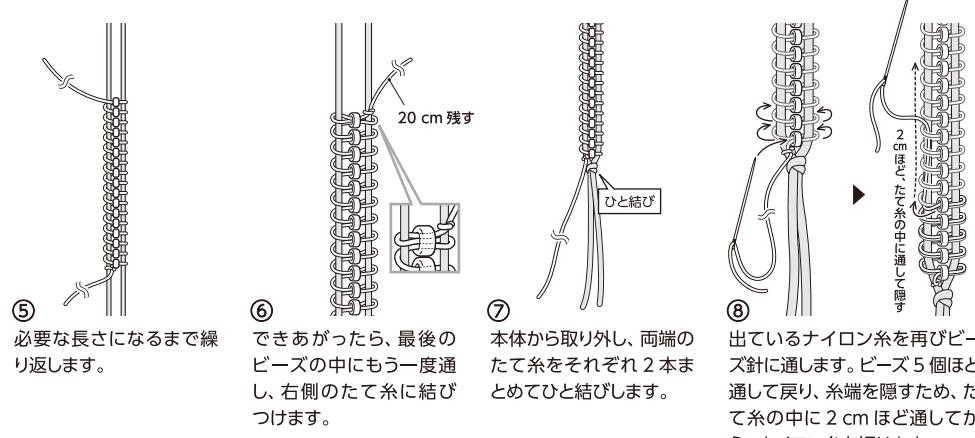
#### ●たて糸の間隔の目安

くし部の山1つ  
分が丸小ビーズ  
1個分の目安に  
なります。  
ビーズの種類や個数に合わせてたて糸を張ってください。



#### ●途中で ナイロン糸がなくなったら

前のナイロン糸の糸端が20cm以上残るようにし、次の糸端を20cm以上残して、右の⑧のように(※作業はプレスレットが本体にかかっている状態で行う)最後のビーズ5個ほどに通してから始めます。前の糸端はある程度進んでから、新たに通したビーズ5個ほどに通します。どちらの糸も、糸端は切らずに残し、⑧の工程で他の糸と同じように、たて糸の中に2cmほど通して隠し、糸を切ります。



⑨ 本商品や使い方説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

## Bのバリエーション

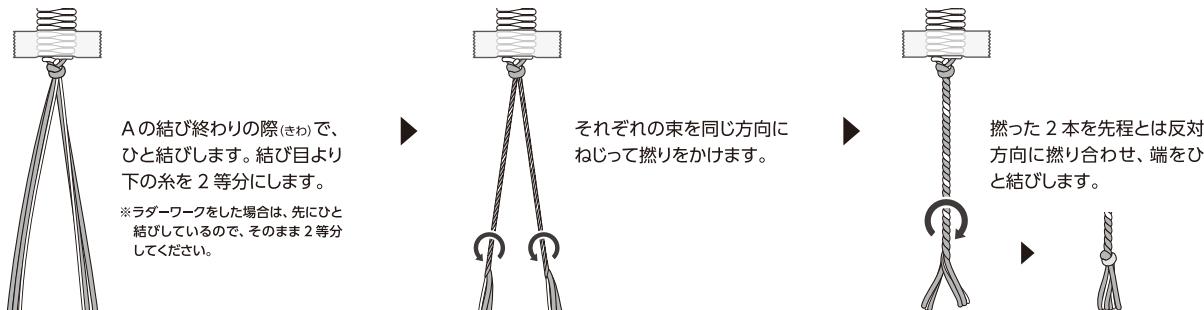
## ロープ編み・三つ編み・四つ編み

Bの部分は、糸を均等に分けて編む方がきれいに仕上がりますが、三つ編みなのに糸が4本ある時などは、2本・1本・1本と分けて編んでも大丈夫です。きっちり均等に分けたい場合は、6本取の糸を分けて均等にしてください。

## ロープ編み



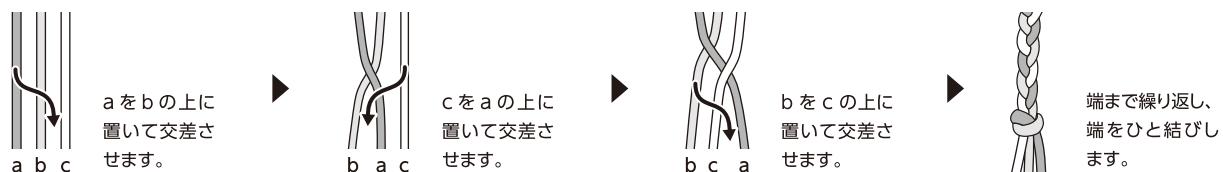
Aの際(きわ)でひと結びしたあと、糸を2つに分けて編みます。



## 三つ編み



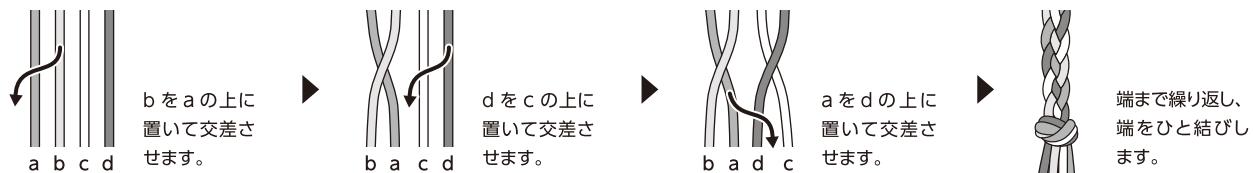
Aの際(きわ)は結ばず、そのまま糸を3つに分けて編みます。



## 四つ編み



Aの際(きわ)は結ばず、そのまま糸を4つに分けて編みます。



## 使用上の注意

- ・用途以外でのご使用はおやめください。
- ・本体に無理に力をかけると破損する恐れがあります。
- ・無理にスレーダーを引っ張ると破損する恐れがあります。
- ・ご使用にならないときは、お子様の手の届かない所に保管してください。

▼商品に不都合な点がございましたら、お買上げ店名をご記入の上、クロバー(株)「お客様係」まで現品をお送りください。

**クロバー株式会社**  
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5  
「お客様係」TEL.(06)6978-2277

© 2020 CLOVER

02202